

2024・3

柏の景気情報

令和6（2024）年3月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和6年3月の調査結果のポイント)

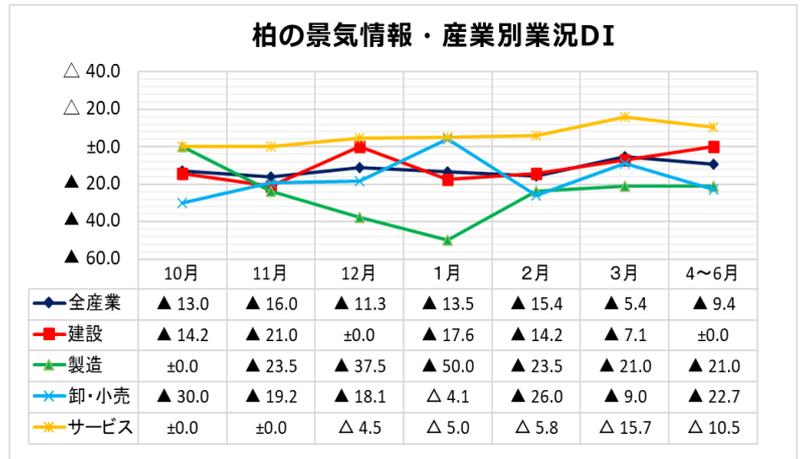
★調査結果のまとめ

回答期間：令和6年3月21日～令和6年4月5日 調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数74

賃上げ・技術者不足など人材確保への課題は多く、4月の働き方改革関連法施行に向けた準備に苦慮の声

3月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲5.4（前月水準▲15.4）となりマイナス幅が10.0ポイント縮小した。

経済活動回復への期待感は伺える一方、業種を問わず原材料・エネルギー価格高騰、人材確保に向けた賃上げによるコスト増などの経営課題は山積み。さらには人手不足に拍車をかけるように建設業や物流・運送業界では2024年問題が本格適用される。時間外労働の上限規制によって、職人やドライバー不足をはじめ、物流コスト増や輸送時間がかかることから受注機会の損失で売上悪化も危惧されるといったコメントが多数寄せられた。



★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



「時間外労働の上限規制適用で週休2日制に動きだしてみたが、予想通り、予定された工期で工事を完了することが困難。短納期の案件は断らざるを得ず、今後の取引にも影響しかねない」（建築工事）「ある程度の価格転嫁は出来ているが、長期の案件は工事中に材料が値上がりすることもあり収益圧迫」（土木工事）「インボイスが始まり、様々な運用上の理解が求められている。防災関連の案件増加が見込まれる」（地質調査）



「ユーザーの在庫調整が続いているが、徐々に上向きになってきた。大手企業が賃上げしており人材確保のために賃金アップは必須、各仕入単価上昇とあわせて利益ベースは芳しくない」（鉄鋼）「4月の値上げの影響で3月は仮需が発生し製造量が多く、この反動がどれくらいくるか予想が難しい状況」（酒類製造）「ダイハツやトヨタの影響で受注減」（機械部品製造）「株価高値を更新する中、自社では景気改善を感じず。賃上げをしたいが、大企業のように難しく給与以外に魅力がある会社にしていかないと人が集まらない」（化学工業）



「食品は価格に敏感な傾向は変わらず強く、目玉商品は反応が良い。4月より値上げ予定の商品は買いだめが目立つ」（大型小売店）「輸入商品の扱が多いため、円安・航空運賃の高騰などが直接原価高騰につながり、それが売価に反映できない」（建築材料卸売）「天候要因もあり、衣料やファッション雑貨の消費が落ち込む。一方でアニメグッズ・食物販・サービス関連は好調継続。エネルギー・設備・人件費等のコスト高により更なる効率化を求められ、出店・設備投資に消極的な声もあり懸念材料」（百貨店）「業績改善が見られず今後の見通しも不透明のため定期昇給が限界、ベースアップにまで手が回らない」（食料・飲料卸売）



「インボイスの導入で、法人の決算・個人の確定申告・日々の経理処理も手間が増えた。賃料の値上げ要素が出始めている」（不動産賃貸・管理）「即戦力人手不足が問題」（ソフトウェア）「2024年問題によって、これまで通りの数を受注することが難しくなる。残業代が減って給与が下がることで離職を考えている社員も出てきており、さらなるドライバー不足になりかねない」（運送）「相続による不動産売却や空家の有効活用等の相談が増加している。金利の先高感によって住宅購入意欲は減少している」（不動産管理）

★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI-LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲5.4に対し、「CCI-LOBO」が▲7.5で、柏のほうがマイナス幅が2.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 5.4	 ▲ 7.1	 ▲ 21.0	 ▲ 9.0	 15.7
CCI-LOBO	 ▲ 12.9	 ▲ 15.6	 ▲ 14.8	 ▲ 17.4	 ▲ 3.8
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 2.7	 ±0.0	 ▲ 10.5	 ▲ 4.5	 26.3
CCI-LOBO	 1.2	 ▲ 9.3	 ▲ 5.5	 ▲ 1.8	 14.8
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 10.8	 ▲ 14.2	 ▲ 15.7	 ▲ 27.2	 15.7
CCI-LOBO	 ▲ 11.9	 ▲ 16.9	 ▲ 14.4	 ▲ 12.5	 ▲ 6.0
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 58.1	 ▲ 21.4	 ▲ 73.6	 ▲ 59.0	 ▲ 68.4
CCI-LOBO	 ▲ 64.5	 ▲ 69.5	 ▲ 56.6	 ▲ 73.2	 ▲ 62.8
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 22.9	 14.2	 21.0	 13.6	 42.1
CCI-LOBO	 24.1	 35.8	 13.6	 21.9	 30.8
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 10.8	 ±0.0	 ▲ 15.7	 ▲ 27.2	 5.2
CCI-LOBO	 ▲ 10.6	 ▲ 7.9	 ▲ 12.4	 ▲ 15.1	 ▲ 9.2

CCI-LOBO

商工会議所早期景気観測(3月速報)

調査期間：2024年3月13日～19日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、コスト増の中、人手不足等で足踏

み
先行きは、改善の期待
高まるも、課題多く力強
さ欠く

3月の全産業合計の業況DIは、▲12.9と前月比からプラスマイナス0.0ポイント。

建設業は、住宅関連を中心に民間工事の不振が続く、悪化した。小売業は、物価高による消費者の買い控えの継続が重荷となり、悪化に転じた。一方、サービス業は、人手不足は継続するものの、国内外の観光需要増の恩恵を受けた飲食・宿泊業が下支えし、ほぼ横ばいとなった。製造業は、飲食品関係の需要増のほか、自動車関係も堅調に推移し、改善となり、卸売業も、製造業にけん引され、改善した。

日経平均株価の最高値更新等、景気回復の兆しが見え

一方、物価の高止まりや円安基調等によるコスト増が

継続している。また、人手不足による受注機会損失やコスト増に見合う価格転嫁もできておらず、業況は足踏みとなった。

【建設業】

「来月から働き方改革関連法が施行されるが、自社の技術者のみならず、下請けや協力会社でも専門人材が不足している。受注機会損失につながる可能性があるため、人材確保に向けて賃上げを実施。採用をすることができず、大手企業との賃金格差により離職されないか、不安が拭えない」(建築工事業)

「資材価格やエネルギー価格の高止まりで負担が多い中、公共工事の入札加点制度に賃上げがあるため、賃上げをせざるを得ない状況である」(一般工事業)

【製造業】

「売上は改善しているが、受注から販売までの間に輸入部材等が値上がりしており、価格転嫁が追い付かず、収益を圧迫している」(自動車・付属品製造業)

「売上は安定しているが、コスト増で業況は足踏み状態である。今後も人手不足や物流問題、円安の伸長による仕入価格の高騰など、不安要素は多いが、生産性向上等を図り、利益を確保していきたい。まさに正念場だと感じている」(パン・菓子製造業)

【卸売業】

「売上は安定しているが、青果物は鮮度が重要なために、来月からの物流2024年問題が売上や採算にどの程度影響するか不安である」(農畜産水産物卸売業)

「受注数は堅調に推移しており、新年度を見据えてさらなる需要増に期待している。一方、輸送費や包装資材などの高止まりによるコスト増で

収益圧迫は継続しているため、

利益確保に向けて価格転嫁を進めていく」(一般機械器具卸売業)

【小売業】

「物価高騰の影響で消費者の購買意欲は停滞しており、購入点数は必要最低限に留まる顧客が多い。取扱商品が生活必需品でないものの、多種多様の在庫を用意する必要があり、売上・採算ともに悪く、従業員の雇用も難しい状況である」(がん具・娯楽用品小売業)

「新年度に向けて学生服等の需要はあったものの、運送費や電気代等の高騰でコストは増加しており、採算は芳しくない」(衣服・日用品小売業)

【サービス業】

「インバウンド需要の増加に伴い、宿泊客は増加傾向にある。一方、今後もインバウンド・国内観光需要が増え続けると新たなホテルの開業が想定され、価格競争に陥らないか危惧

している」(宿泊業)

「年度末のため、団体での歓迎会の予約も着実に増加している。このままの流れを維持していきたい」(飲食店)

全国・産業別業況DIの推移

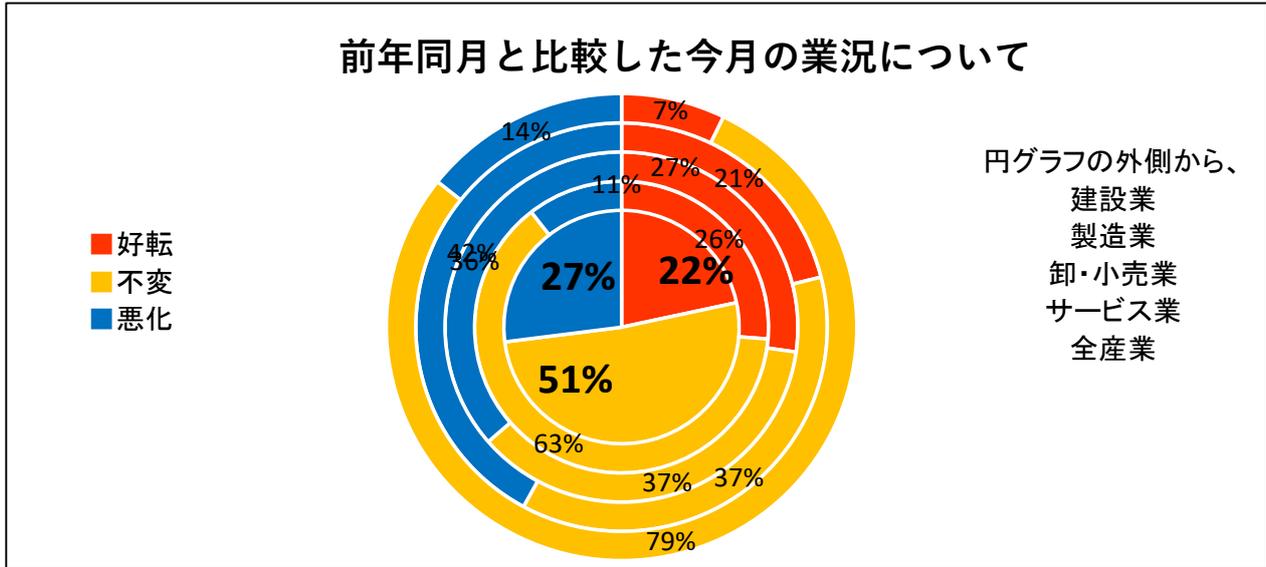
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
10月	▲ 10.5	▲ 14.3	▲ 9.3	▲ 20.6	▲ 16.0	△ 0.0
11月	▲ 9.7	▲ 11.7	▲ 10.2	▲ 12.0	▲ 18.7	△ 0.2
12月	▲ 8.4	▲ 11.0	▲ 8.1	▲ 6.9	▲ 20.8	△ 2.4
1月	▲ 11.4	▲ 12.3	▲ 13.4	▲ 10.4	▲ 16.2	▲ 5.2
2月	▲ 12.9	▲ 13.0	▲ 17.0	▲ 19.2	▲ 14.4	▲ 4.4
3月	▲ 12.9	▲ 15.6	▲ 14.8	▲ 17.4	▲ 17.9	▲ 3.8
見通し	▲ 12.2	▲ 16.9	▲ 10.3	▲ 15.5	▲ 19.4	▲ 4.0

令和6年（2024年）3月の動向

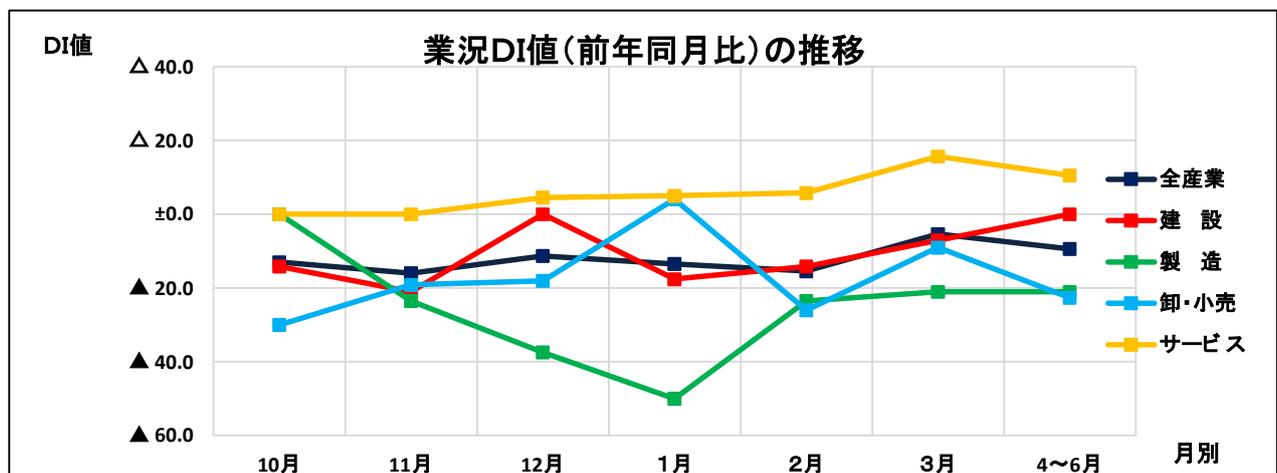
【業況について】

- 3月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲5.4（前月水準▲15.4）となり、マイナス幅が10.0ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（4月から6月）の先行き見通しについては、全産業では、▲9.4（前月水準0.0）となり、マイナス幅が9.4ポイント拡大した。



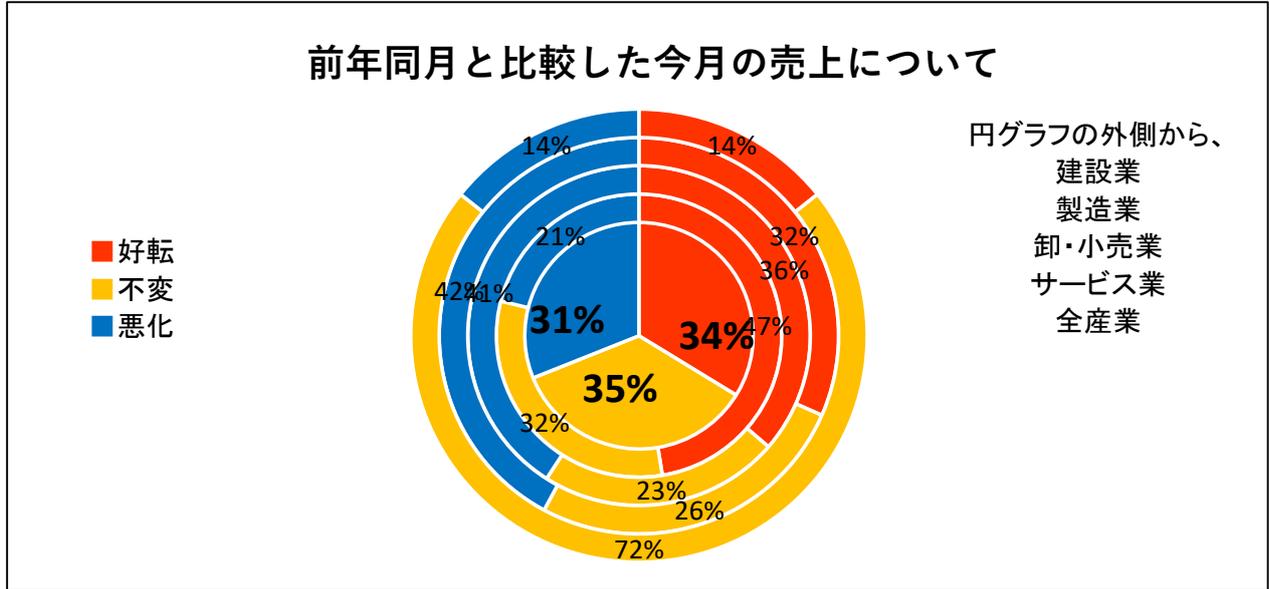
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4~6月 (3~5月)	
全産業	▲13.0	▲16.0	▲11.3	▲13.5	▲15.4	▲5.4	▲9.4 (±0.0)	
建設	▲14.2	▲21.0	±0.0	▲17.6	▲14.2	▲7.1	±0.0 (±0.0)	
製造	±0.0	▲23.5	▲37.5	▲50.0	▲23.5	▲21.0	▲21.0 (±0.0)	
卸・小売	▲30.0	▲19.2	▲18.1	△4.1	▲26.0	▲9.0	▲22.7 (▲26.0)	
サービス	±0.0	±0.0	△4.5	△5.0	△5.8	△15.7	△10.5 (△35.2)	



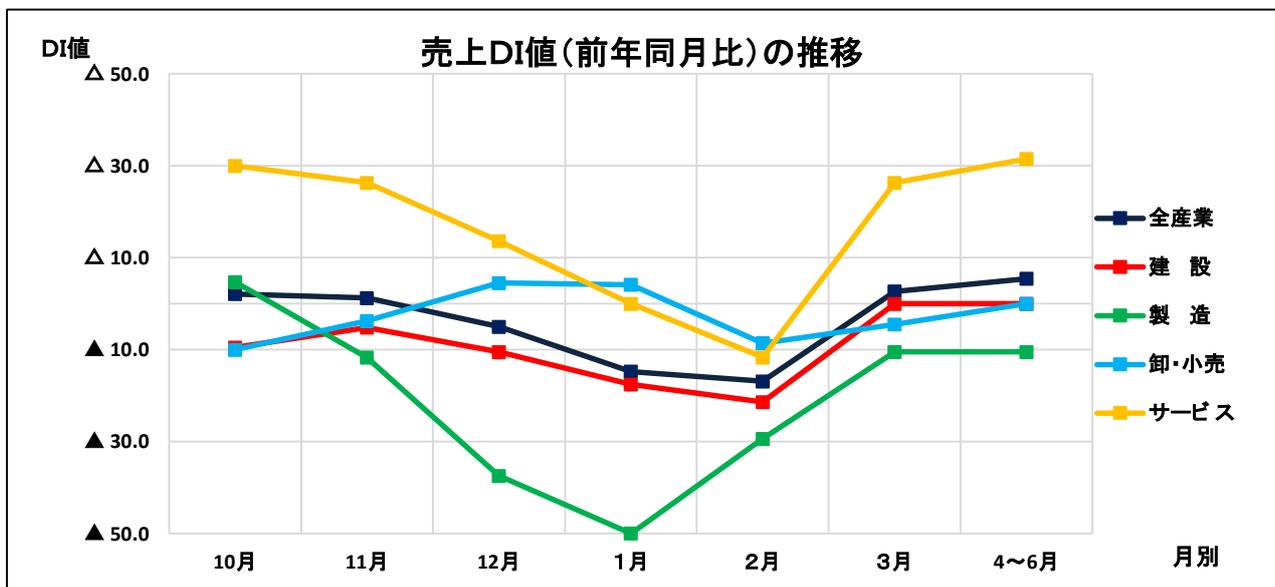
【売上について】

- 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△2.7(前月水準▲16.9)となり、マイナス幅が19.6ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、△5.4(前月水準△14.0)となり、プラス幅が8.6ポイント縮小した。



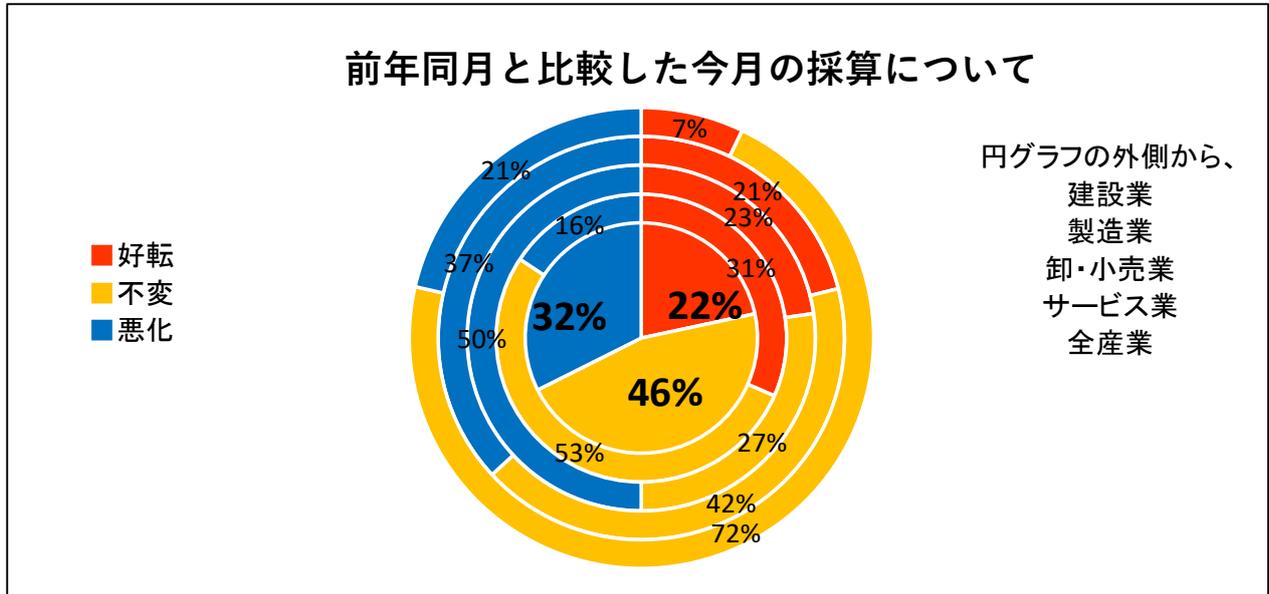
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	10月	11月	12月	令和6年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月 (3~5月)
全産業	△2.1	△1.2	▲5.0	▲14.8	▲16.9	△2.7	△5.4 (△14.0)
建設	▲9.5	▲5.2	▲10.5	▲17.6	▲21.4	±0.0	±0.0 (△7.1)
製造	△4.7	▲11.7	▲37.5	▲50.0	▲29.4	▲10.5	▲10.5 (▲5.8)
卸・小売	▲10.0	▲3.8	△4.5	△4.1	▲8.6	▲4.5	±0.0 (△13.0)
サービス	△30.0	△26.3	△13.6	±0.0	▲11.7	△26.3	△31.5 (△41.1)



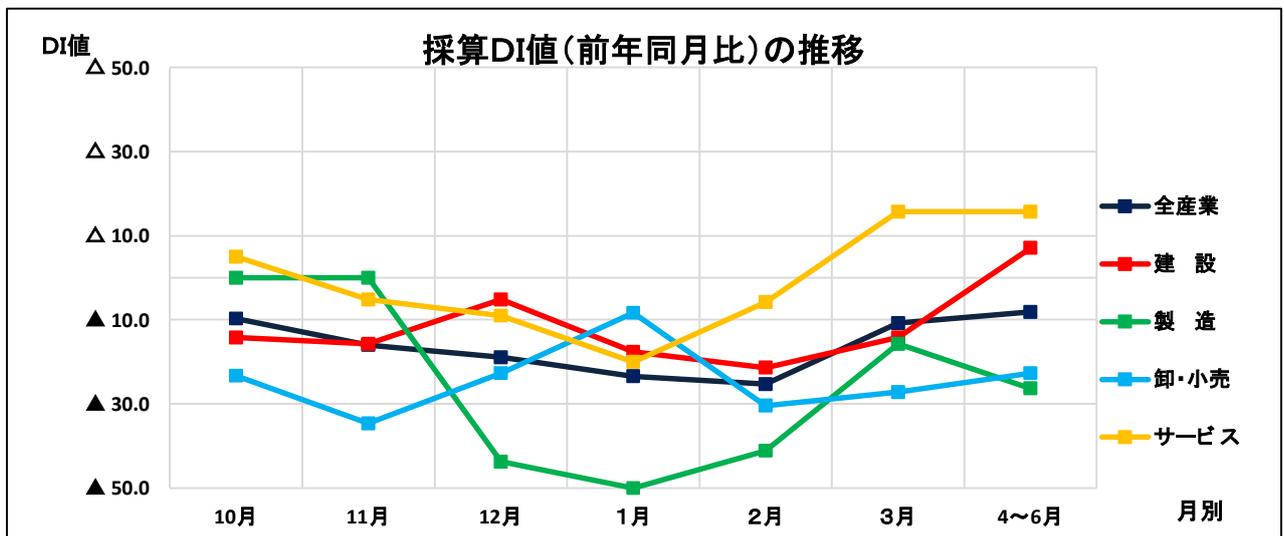
【採算について】

- 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.8(前月水準▲25.3)となり、マイナス幅が14.5ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.1(前月水準△2.8)であり、マイナス幅が10.9ポイント拡大する見通しである。



採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

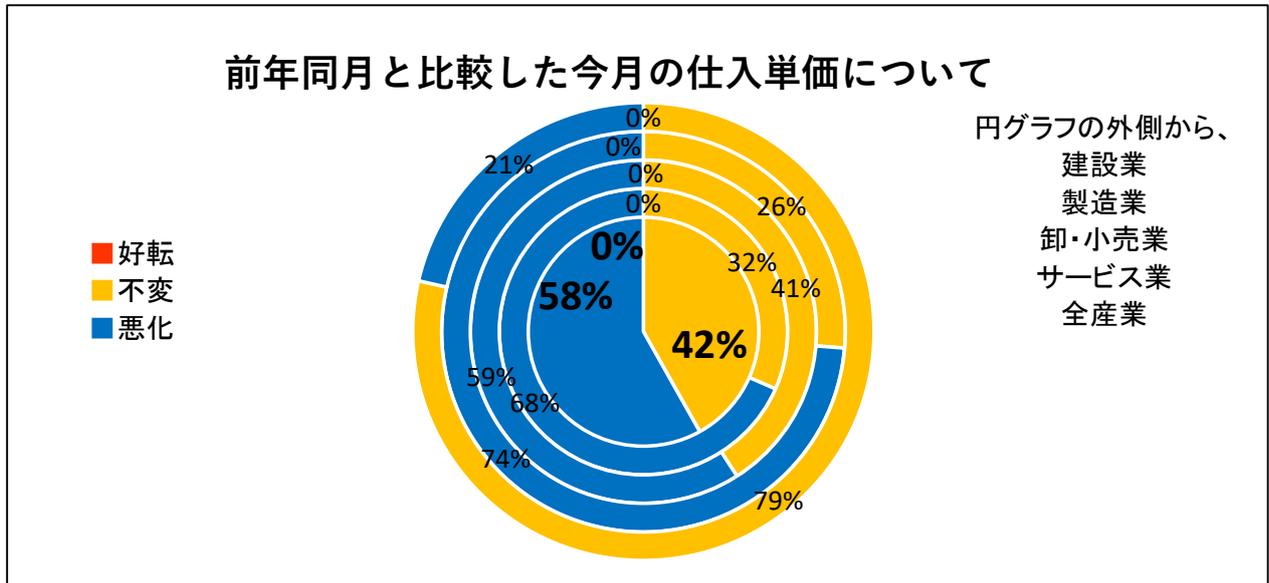
	10月	11月	12月	令和6年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月(3~5月)
全産業	▲9.7	▲16.0	▲18.9	▲23.4	▲25.3	▲10.8	▲8.1(△2.8)
建設	▲14.2	▲15.7	▲5.2	▲17.6	▲21.4	▲14.2	△7.1(±0.0)
製造	±0.0	±0.0	▲43.7	▲50.0	▲41.1	▲15.7	▲26.3(±0.0)
卸・小売	▲23.3	▲34.6	▲22.7	▲8.3	▲30.4	▲27.2	▲22.7(▲8.6)
サービス	△5.0	▲5.2	▲9.0	▲20.0	▲5.8	△15.7	△15.7(△23.5)



【仕入単価について】

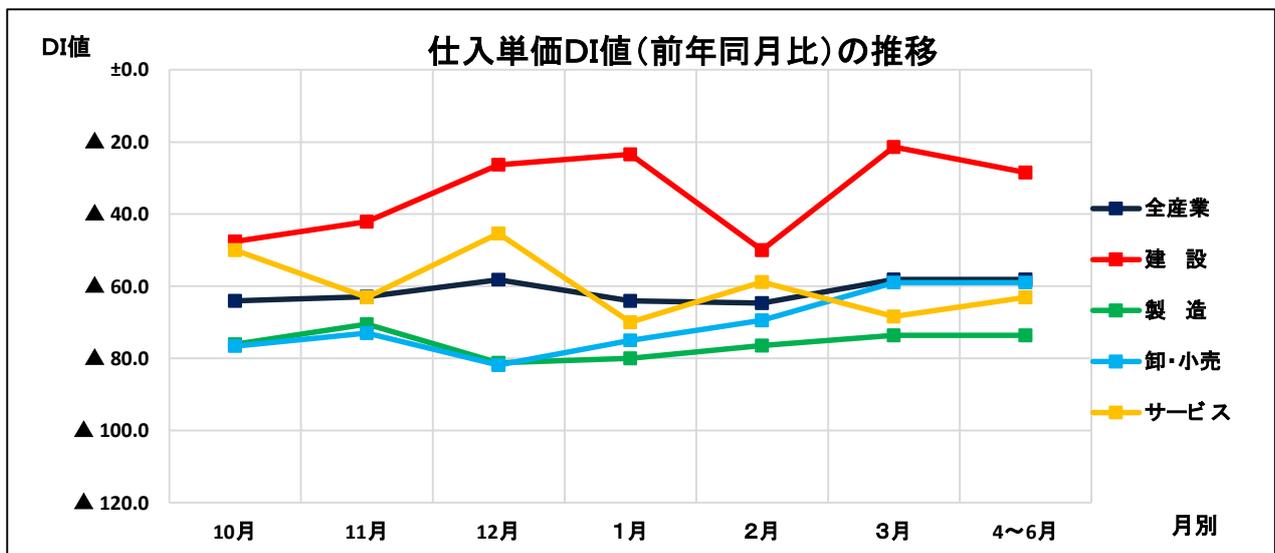
○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲58.1(前月水準▲64.7)となり、マイナス幅が6.6ポイント縮小した。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲58.1(前月水準▲49.2)となり、マイナス幅が8.9ポイント拡大する見通しである。



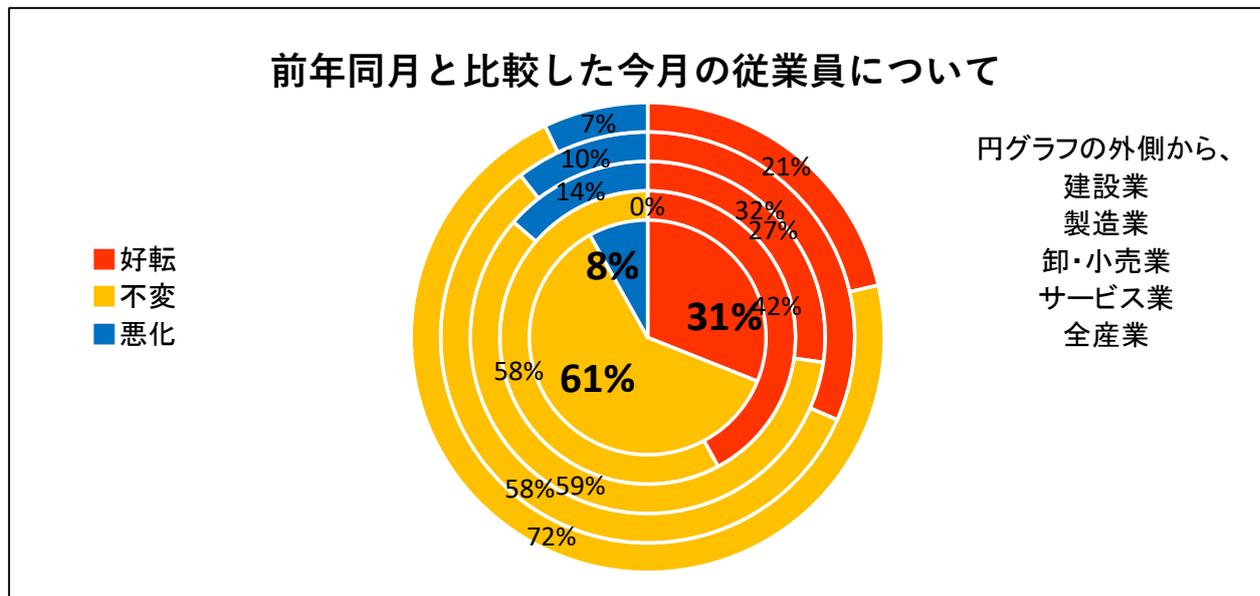
仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	10月	11月	12月	令和6年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月 (3~5月)
全産業	▲64.1	▲62.9	▲58.2	▲64.1	▲64.7	▲58.1	▲58.1 (▲49.2)
建設	▲47.6	▲42.1	▲26.3	▲23.5	▲50.0	▲21.4	▲28.5 (▲35.7)
製造	▲76.1	▲70.5	▲81.2	▲80.0	▲76.4	▲73.6	▲73.6 (▲41.1)
卸・小売	▲76.6	▲73.0	▲81.8	▲75.0	▲69.5	▲59.0	▲59.0 (▲65.2)
サービス	▲50.0	▲63.1	▲45.4	▲70.0	▲58.8	▲68.4	▲63.1 (▲47.0)



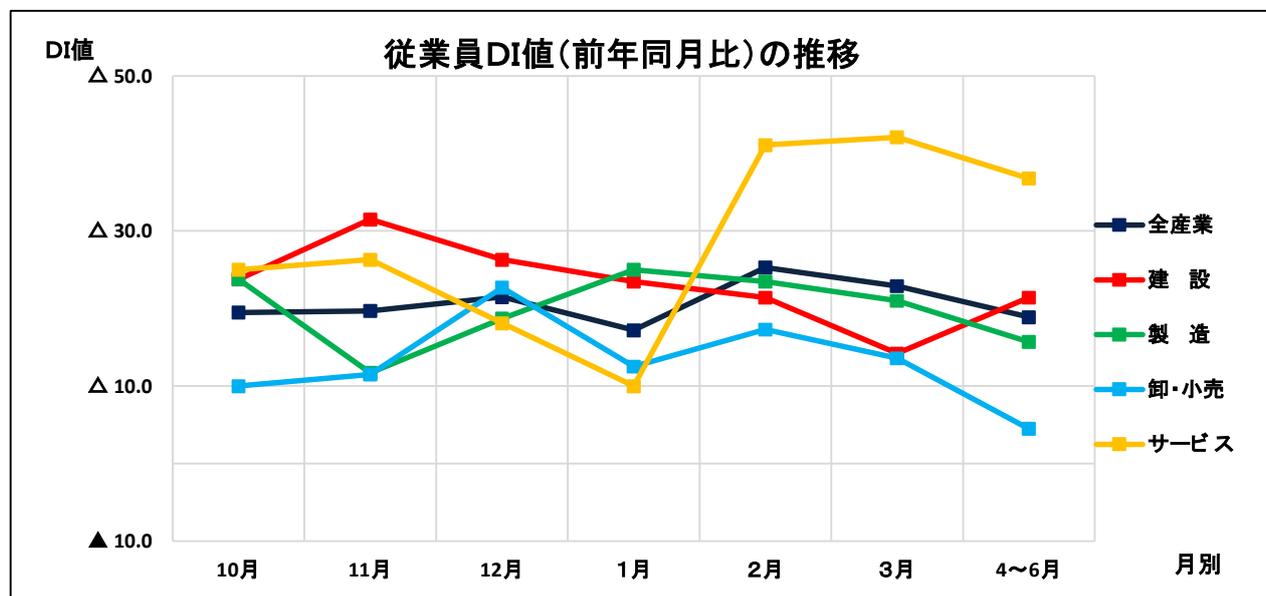
【従業員について】

- 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△22.9(前月水準△25.3)となり、プラス幅が2.4ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、△18.9(前月水準△26.7)となり、プラス幅が7.8ポイント縮小する見通しである。



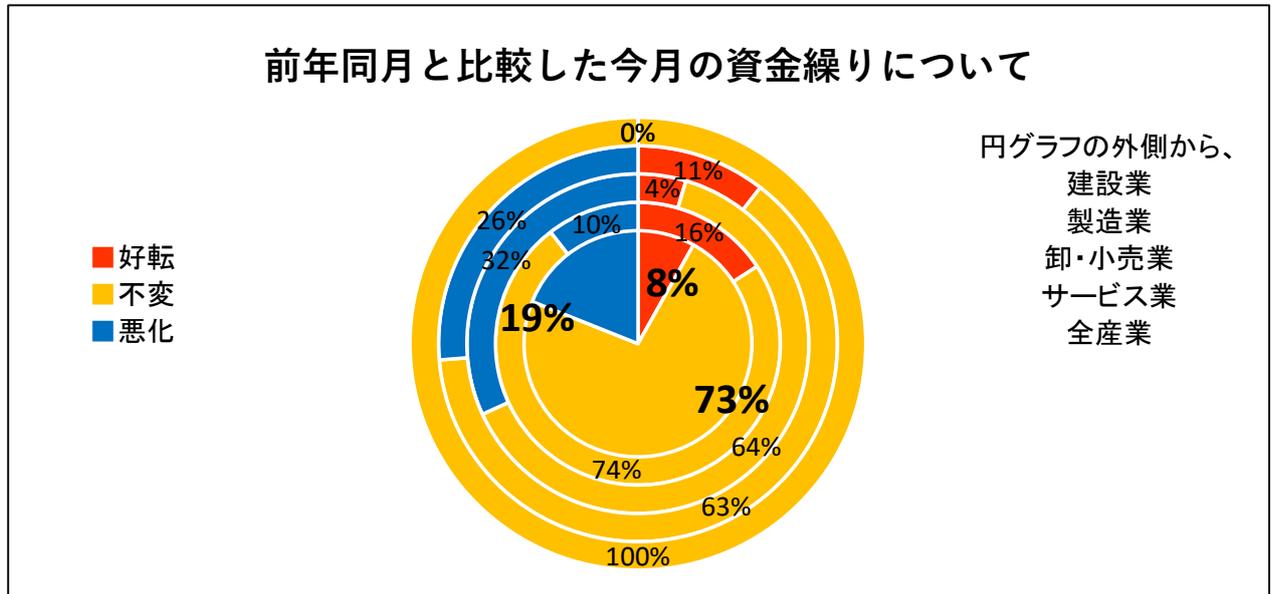
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和6年						先行き見通し
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4~6月 (3~5月)
全産業	△19.5	△19.7	△21.5	△17.2	△25.3	△22.9	△18.9 (△26.7)
建設	△23.8	△31.5	△26.3	△23.5	△21.4	△14.2	△21.4 (△21.4)
製造	△23.8	△11.7	△18.7	△25.0	△23.5	△21.0	△15.7 (△29.4)
卸・小売	△10.0	△11.5	△22.7	△12.5	△17.3	△13.6	△4.5 (△13.0)
サービス	△25.0	△26.3	△18.1	△10.0	△41.1	△42.1	△36.8 (△47.0)



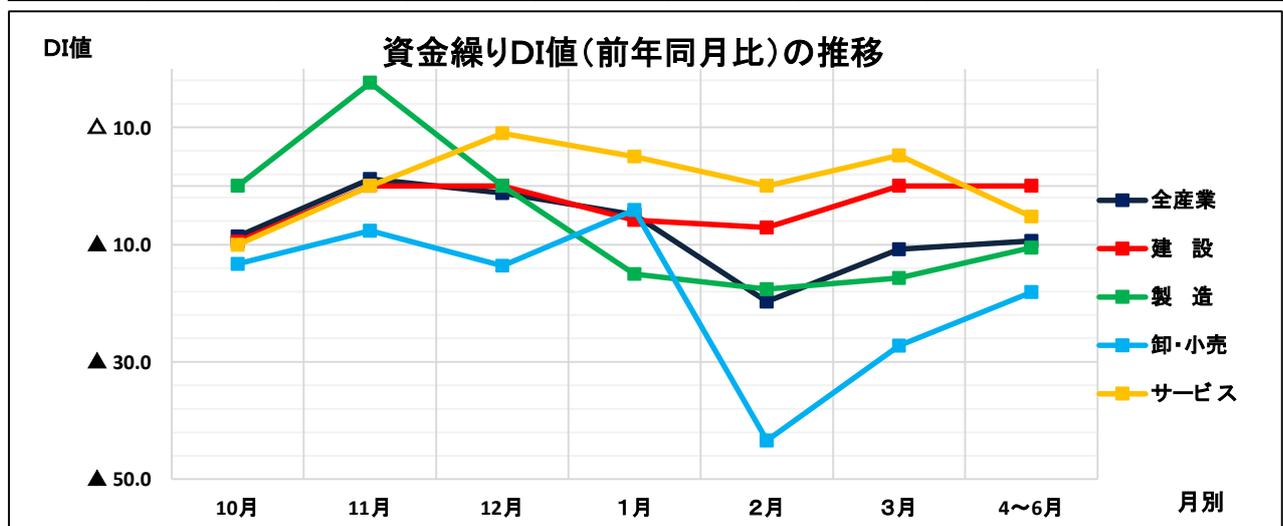
【資金繰りについて】

- 3月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.8(前月水準▲19.7)となり、マイナス幅が8.9ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.4(前月水準▲4.2)となり、マイナス幅が5.2ポイント拡大する見通しである。



資金繰りD I値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	10月	11月	12月	令和6年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月 (3~5月)
全産業	▲8.6	△1.2	▲1.2	▲4.9	▲19.7	▲10.8	▲9.4 (▲4.2)
建設	▲9.5	±0.0	±0.0	▲5.8	▲7.1	±0.0	±0.0 (△7.1)
製造	±0.0	△17.6	±0.0	▲15.0	▲17.6	▲15.7	▲10.5 (▲17.6)
卸・小売	▲13.3	▲7.6	▲13.6	▲4.1	▲43.4	▲27.2	▲18.1 (▲13.0)
サービス	▲10.0	±0.0	△9.0	△5.0	±0.0	△5.2	▲5.2 (△11.7)

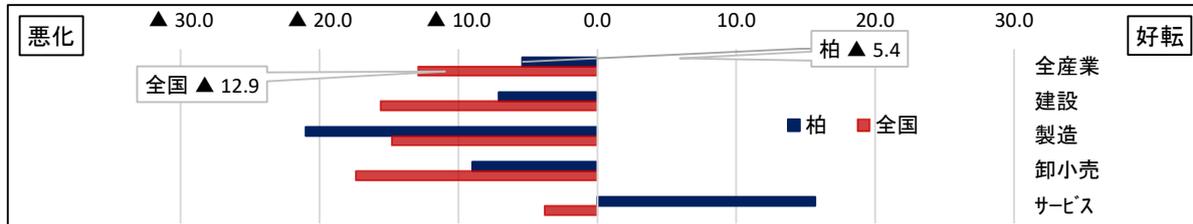


全国（CCI-LOBO）との比較

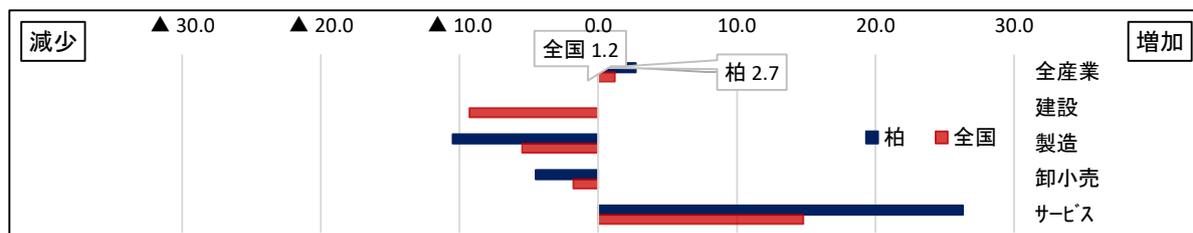
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

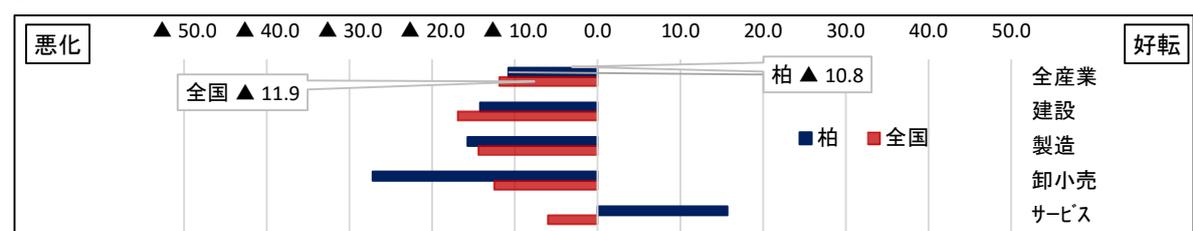
【業況D I】



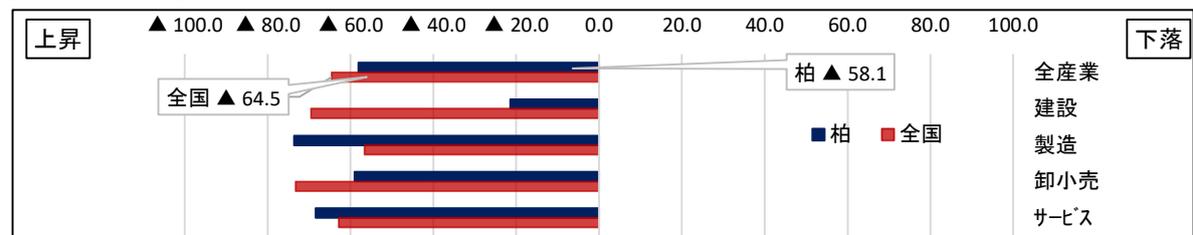
【売上D I】



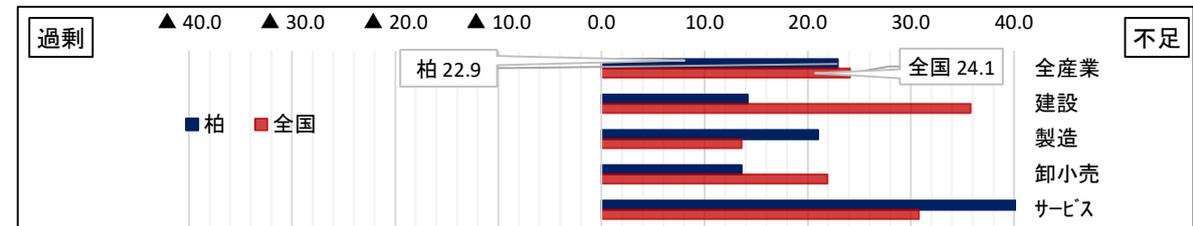
【採算D I】



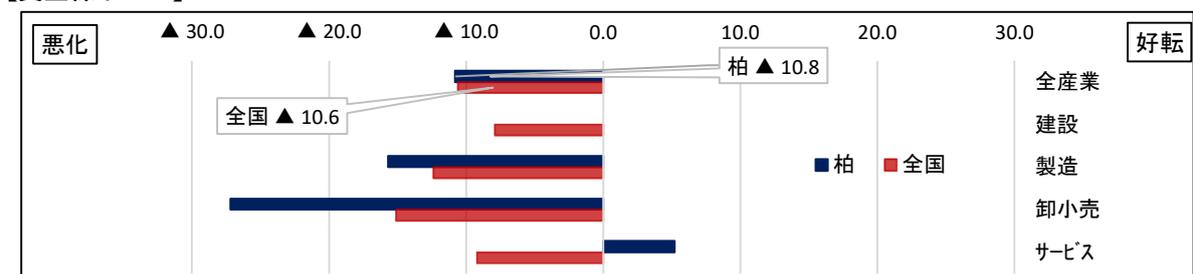
【仕入単価D I】



【従業員D I】



【資金繰りD I】



【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	ある程度の価格転嫁は出来ているが、長期の案件は工事中に材料が値上がりすることもあり、収益を圧迫している。	土木工事
	時間外労働の上限規制が適用される2024年4月に向けて週休2日の確保に動きだしてみたものの、予想通り、予定された工期で工事を完了することが困難。 短納期の案件は断らざるを得ず、今後の取引にも影響しかねない。	建築工事
	インボイス制度が始まり、国税庁から時々問い合わせ受けるなど、様々な運用上の理解がもとめられており、業況では防災関連の案件増加が見込まれる。	地質調査
製造業	コロナ禍を機にネット通販事業を開始し、売上は堅調に推移している。一方で、2024年問題が開始されると、ドライバー不足で1日で運ぶ荷物の量が減ることが予想できるため安定した収益が確保できるのか不安	一般産業用機械・装置製
	4月の値上げの影響で3月は仮需が発生し、製造量の多い月であった。この反動がどれくらいくるかの予想が難しい状況。	酒類製造
	前年同期はコロナ後の医療容器の特需があったが、今期は落ち着いてしまい売り上げは減少した。先の見通しも厳しい状況が続きそうだ	プラスチック加工
	円高と大企業の賃金UPでマイナス金利解除とは？ そもそも大企業の銀行借入れはあるのか？ 金利上昇してダメージがある中小企業は賃上げできているのか？ 毎年の賃上げや賞与の平均支給額など、テレビで報道していますが、中小零細企業として聞いていてキツイです。 いったいどこの平均値なのか？ ボーナス支給を見合わせている企業の0円は平均値に入っているのか？ 賃上げ満額回答とは？労働組合のない企業のほうが圧倒的多数ではないのか？ これは政府による情報操作としての報道であると考えているが、まあ、大方の人は理解の上で聞いているから良いとして。 まさか金利の決定についても適用されるとは。びっくりしています。	その他の金属製品製造
	今月は年度末なので一時的に売り上げが多い傾向にあり、今月と比べると年度スタートはどうしても落ち込むが悲観材料ではない。	その他の機械・同部品製造
	株価が高値を更新する中、自社が関わる業界では、全く景気の改善を感じることが無い。物価高により、賃上げをしたいところだが、大企業のようには難しい。 給与以外に魅力がある会社にしていかないと人手が集まらない。	その他の化学工業
	ユーザーの在庫調整が続いているが、徐々に上向きになってきている。 大手企業が今回の春闘でかなり賃金等アップしているの、人材確保のために賃金アップは必須と各仕入単価上昇とあわせて利益ベースは芳しくない	その他の鉄鋼
	ダイハツやトヨタの影響で受注減	機械部品製造

【業種別】業界内トピックス

卸 ・ 小 売 業	去年は鳥インフルエンザの影響で主要原料のタマゴの仕入値が高値であったが、今年は昨年よりは落ち着きそこだけは救い。	菓子製造・販売
	人件費に運送費や包装資材のコストが毎月増加しており、採算が取れない状況である	食料卸売
	3月でベテランパートや学生バイトが退職するため、人手不足が深刻になり受注機会の損失に	飲食料品製造・販売
	食品は価格に敏感な傾向は変わらず強く、目玉商品は反応が良い。4月より値上げ予定の商品は買いためが目立つ。	大型小売店
	輸入商品の扱が多いので、円安、航空運賃の高騰、などが直接原価高騰につながっており、それが売価に反映できない。	建築材料卸売
	まだまだ景気が良くなった感がありません。 株価だけが異常に上昇しているのが気になります。	大型小売店
	月半ばからの気候低下など天候要因もあり、衣料品・ファッション雑貨の消費が落ち込む。一方でアニメグッズ・食物販・サービス関連は好調継続。 エネルギー・設備・人件費を含むコスト高による更なる効率化を求められ、出店・設備投資に消極的な声もあり、来年度に向けて懸念材料。	百貨店
	業績改善が見られず今後の見通しも不透明のため定期昇給が限界、ベースアップにまで手が回らない	食料・飲料卸売
サ ー ビ ス 業	即戦力人手不足が問題	ソフトウェア業
	インボイスの導入で、法人の決算も個人の確定申告も、日々の経理処理も、手間が増えてしまった。 賃料の値上げ要素が出始めている。	不動産賃貸・管理
	春休みシーズンで受注増、海外はアジアが人気。GWの予約も微量	旅行業
	春は卒園式や退職所への花束の受注依頼増。	花卸売
	1月、2月の新入会の問い合わせは例年に比べて多かったが、3月の問合せが少なかった。4月にもキャンペーンを打ち、4月からの動きに期待したい。	学習塾
	会社としては、2024年問題（時間外労働の上限規制）によって、これまで通りの数を受注することが難しくなる。残業代が減って給与が下がることで離職を考えている社員も出てきており、さらなるドライバー不足になりかねない。	運送業
	相続による不動産売却や空家の有効活用等の相談が増加している。 ほかにも、沈滞物件の需要も増えており、土地の値上がりは治まってきている。金利の先高感によって住宅購入意欲が減少している。	不動産管理

調査要領

回答期間

令和6年3月21日 ~ 令和6年4月5日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	74	42.8%
建設	38	14	36.8%
製造	44	19	43.2%
卸・小売	46	22	47.8%
サービス	45	19	42.2%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				